

2019 年度 自己点検・評価書

2020 年3月

佐賀大学

保健管理センター

2019年度の保健管理センターの業務について総括し、活動報告および自己点検・評価を行う。

I 日常業務に関する状況と自己評価

保健管理センターは、佐賀大学の保健管理に関する専門的業務を行うことを目的として設置されている(佐賀大学保健管理センター規則第3条)。業務内容は下記の通りである。

- (1) 保健管理計画の企画・立案
- (2) 定期及び臨時の健康診断
- (3) 健康相談及び救急措置説明
- (4) 健康診断の事後措置、その他健康の保持増進に関する必要な指導
- (5) 学内の環境衛生及び伝染病予防に関する指導・援助
- (6) 保健管理充実向上のための調査研究
- (7) その他保健管理に関し、必要な専門的業務

最近では、従来の健康診断を中心とする業務に加え新たな業務内容が増えてきている。学生支援の面では、発達障害等の障害を持ち合理的配慮を必要とする学生が増えてきており、学生支援室と協力して支援に当たっている。また、教職員の支援に関しても産業医としてストレスチェックによる高ストレス者の面談や復職支援、就労支援等のサポートを行うケースが増えてきている。

学生健康管理実施状況

本庄地区では、健康診断として、定期健康診断(新入生、在学生、留学生)、スポーツ健康診断、RI・じん肺・特定化学物質健康診断、感染症対策として、小児感染症(麻疹)抗体検査、メンタルヘルスとして、通常カウンセリングおよびスクリーニング、その他として、禁煙サポート、肥満学生支援、保健指導・救護、健康診断証明書発行などの業務を行っている。

鍋島地区では、健康診断として、在学生、大学院生の定期健康診断、RI健康診断、感染症対策として、小児感染症対策(新入生)、B型肝炎ワクチン接種、インフルエンザワクチン接種、メンタルサポートとして、カウンセラー面談、スクリーニング面談、その他として保健指導・救護、健康診断証明書発行などの業務を行っている。

<本庄キャンパス>

1. 定期健康診断

保健管理センターでは、3月下旬から4月に全学生を対象に定期健康診断を行った。新入生は、1,174名中1,166名(99.3%)が定期健康診断を受けた。在学生では、2年生は1,182名中769名(65.1%)、3年生は1,187名中953名(80.3%)、4年生は1,407名中1,033名(73.4%)、大学院生は464名中349名(75.2%)、総計5,414名中4,270名(78.9%)が受診した。とくに2年生の受診率の低下が目立ち、全体の受診率は平成30年度の79.7%より0.8%低下し、78.9%であった。過去5年で受診率は漸減しており、とくに一定の学部・学年で受診率が低い傾向がみられる(経済学部、理工学部2年生では50%台の受診率)ため、何らかの対策を検討する必要がある。

2. 健康診断結果(各検査所見)

現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、やせ(BMI 18未満)が417名、肥満(BMI 30以上)が108名、アレルギー疾患が180名、呼吸器疾患76名、皮膚科疾患51名の順であった。胸部レントゲン検査は要精密となった者が13名であった。血圧は基準値を超える者には再検査を行い、異常値が続く者については病院紹介をした。検尿異常(尿蛋白、潜血)は58名あり、再検査でも異常が続く者については、腎臓内科、泌尿器科等に紹介した。心電図検査は、前年度有所見者および既往・胸部症状が有る者53名を対象に実施し、有所見者は17名(32.1%)であった。

3. 留学生健康診断

留学生健診は、前学期と後学期(後学期入学者対象)に実施している。受診率は前学期の健診対象学生237名中受診者161名(67.9%)、後学期の対象学生65名中受診者64名(98.5%)、総計302名中225名(74.5%)だった。後期の健診については学生証による認証を利用して予約システムを導入したところ、非常に高い受診率を得ることが出来た。血液検査では、脂質異常症、肝機能障害、高血糖、貧血、高尿酸血症等の異常が見られた。血液検査結果は個人に通知し、個別に生活指導・病院紹介等を行った。

4. メンタルヘルス対策

4-1 健康調査(メンタルスクリーニング)

心理面のスクリーニングを行うために、新入生、卒業予定学生(学部学生)、大学院生および編入生へ「学生生活質問票」(CMHQ: College Mental Health Questionnaire を改編)を配布し、調査を実施した。総得点が30点以上、希死念慮の項目で3点(「かなりの間」)以上だった学生、相談

希望の学生、悩みを抱えているのではないかと健診時に判断された学生を要面接者として呼び出しを行った。結果は以下の通りである。

新入生:回収率は 1,174 名中 1,160 名(98.8%)であった。要面接者は 47 名(4.1%)であった。それらの学生の中で、43 名(91.5%)に面接を実施した。神経症、発達障害圏内の可能性、気分障害、自殺のリスクなどの状態が 16 名に認められた。

卒業予定学生(学部学生):回収率は 1,407 名中 1,013 名(72.0%)であった。要面接者は 54 名(5.3%)であった。それらの学生の中で、46 名(85.2%)に面接を実施した。発達障害圏内の可能性、気分障害、神経症などの状態が 26 名に認められた。

大学院生:回収率は 533 名中 378 名(70.9%)であった。要面接者は 21 名(5.6%)であった。それらの学生の中で、20 名(95.2%)に面接を実施した。神経症、発達障害圏内の可能性、気分障害、睡眠障害などの状態が 17 名に認められた。

編入生:回収率は 35 名中 32 名(91.4%)であった。要面接者は 3 名(9.4%)であった。2 名に面接を実施した。他群と比べて要面接者率が高い傾向が見られた。

全体として、111 名に面接を行い、とくに問題がないと判断された学生は 55 名だった。精神的な診断が可能とされた学生は 56 名で、発達障害圏の可能性、神経症(不安状態など)が比較的多く見られた。56 名のうちカウンセリングが必要と判断された 10 名については継続的な面談を実施し、要医療の 1 名は外部の医療機関へ紹介した。

今年度から、希死念慮の項目が 3 点以上の学生(51 名)には健診当日にアプローチを行う形に変更し、面接へスムーズに繋げることができた(面接実施率 90.2%)。また全体としての面接率も、要面接者 125 名に対し面接者 111 名(88.9%)と前年までと比較してかなり改善しており、メンタルヘルスのスクリーニングが有効に機能していると評価できる。

4-2 カウンセリング状況

本庄地区では、医師 2 名、保健師 2 名と非常勤の学生カウンセラー 3 名(学生支援室と兼任)がカウンセリングを行っている。カウンセリングを受けた学生数は 157 名、延べ面談数は 525 回であった。相談内容は、精神衛生が 113 名と多く、次いで学業 13 名、身体健康 12 名、進路 5 名、学生生活 4 名の順だった。

4-3 障害学生(留学生を除く)

本年度の保健管理センターが把握している障害学生数は 151 名、何らかの修学支援を行っている学生は 61 名(診断書無しの発達障害疑い 3 名も含む)、障害手帳等取得者は 1 名であった。前年度と比較して障害学生数の増減はなかった。病弱・虚弱、精神障害、発達障害、視覚・聴

覚・言語の障害、肢体不自由などの障害を持つ学生が在籍しており、学生支援室集中支援部門と連携して支援ニーズの把握や修学支援、身体・健康面のサポート等を行っている。

5. 感染症対策

本庄地区では、昨年度まで教育実習・介護等体験に参加する学生全員を対象に麻疹抗体検査を行っていたが、今年度より2つのガイドライン(「医療・福祉・保健・教育に関わる実習学生のための予防接種の考え方(第1版)」(日本小児保健協会 予防接種・感染症委員会 2018年)、「医療関係者のためのワクチンガイドライン(第2版)」(一般財団法人 日本環境感染学会ワクチンに関するガイドライン改訂委員会 2014年))の考え方に基づき、母子手帳による予防接種歴の確認を行う方法へ変更した。

2019年12月中国湖北省武漢市で新型コロナウイルスによる感染症が発生し、急速に全世界へ感染が拡大した。保健管理センターでは学生や教職員への情報提供・注意喚起、国際課と連携し留学予定の学生への対応や中国人留学生の渡航状況の把握、入試対策等を行った。

その他として、留学予定者の母子手帳確認による免疫の確認やワクチン接種に関する情報提供、留学予定者のメディカルレポートによる健康状態の確認などを行っている。

6. 健康診断証明書発行状況

自動発行機による健康診断証明書発行状況は、2126通であった。保健管理センターにおける発行件数(自動発行で対応できないもの)は、225通であった。発行数が多いのは、発行開始直後の6月、発行終了前の3月だった。発行の目的は、ほとんどが就職用だった。

7. 保健管理センター利用状況(本庄地区)

保健管理センターの利用件数は5025件(学生3211件うち留学生460件・職員1814件)であった。学生・教職員の体調不良時の診察や医療機関への紹介、外傷の応急処置、メンタルヘルスについての相談、健診の事後措置(血圧、検尿の再検査等)、保健指導など利用の内容は多岐に渡っている。医師2名、保健師2名の体制で対応している。

<鍋島キャンパス>

1. 定期健康診断

医学部の定期健康診断は、医学部のカリキュラムや実習に合わせ計画し、医学科5年生は1月、医学科6年生は3月、それ以外の新入生・在学生・大学院生は4月に実施している。医学部新入生は166名全員が定期健康診断を受けた。在学生は740名中725名(98.0%)、大学院生

219 名中 37 名 (16.9%) が受診した。学部を受診率は 98.3% であるが、大学院生の大学で実施する健康診断の受診率が低い状況は続いている。

大学院生に対しては、社会人も多いため他機関で受診した健康診断結果の提出を呼びかけた。2019 年開設の医学部先進健康科学講座については、4 コースが設けられており、理工学部・農学部の研究室で研究する医学系大学院生については、本庄キャンパス保健管理センターと連携して健診を実施した。12 月までの大学院生の健康診断受診状況は、健康診断結果を提出した分も含め 56.2% となり、昨年の受診率より向上したものの依然低く、引き続き大学院生への周知を行っていく。

2. 健康診断結果

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像としては、やせ (BMI18 未満) が 13 名、気管支喘息などの呼吸器疾患が 17 名、アレルギー性疾患 4 名が認められた。医学部は血液検査を実施しているため肝機能異常を含む代謝・内分泌の血液検査異常が例年多いが、今年度は新入生で精密検査対象となる学部学生は 2 名 (医学科 2 名) であった。

3. 感染症対策

小児感染症: 2016 年度より、入学時に小児感染症 4 項目 (麻疹・風疹・水痘・ムンプス) の血液検査結果を提出することとした。今年度からは、小児感染症 4 項目の抗体価が、佐賀大学医学部の基準に満たない場合は、入学前にワクチン接種を済ませるよう案内を行った。抗体基準は、環境感染学会の「医療従事者のためのワクチンガイドライン」を参考に、麻疹 16.0 以上、風疹 8.0 以上、水痘・ムンプス 4.0 以上とした。

当センターでは、複数の生ワクチン接種を同時に接種していたが、医療機関によっては同時接種をしないクリニックもあり、1 年生の基礎実習 (6 月実施) に小児感染症ワクチン接種が間に合わない学生も存在した。これについては、医学教育分野の教員との情報共有が不可欠であったと反省し、2020 年度からは、ワクチン接種状況の情報共有と、B 型肝炎ワクチン接種を 10 月接種開始に変更し、新入生前期は小児感染症のワクチン接種を優先することとした。

B 型肝炎ワクチン: 入学時の血液検査で、B 型肝炎の抗原抗体がない学生に B 型肝炎ワクチン接種を行った。医学科 1 年 105 名、看護学科 60 名、計 165 名が接種を受け、157 名 (95.1%) が陽転した。陽転しなかった学生 7 名については、12 月・1 月に追加接種を行い、5 月中旬までに確認検査を行う予定である。医学科 4 年生については、入学時に B 型肝炎ワクチン接種を行い、実習前の確認検査として 9 月に 100 名に検査を実施した。63 名が HBs 抗体陽性から陰性に

変化していた。この対応として、2020 年 1 月 24 日に B 型肝炎ワクチンの追加ワクチン接種を、希望者 46 名に行った。

インフルエンザワクチン:10 月～11 月に実習学生医学科 5 年、看護学科 3 年、および国家試験を受ける学年医学科 6 年、看護学科 4 年、大学院生を含む 423 名にワクチン接種を行った。

新型コロナウイルス感染症:2019 年 12 月中国湖北省武漢市で新型コロナウイルス感染症が発生した。その対応については、本庄地区保健管理センター、医学部学生課と対応について情報共有した。例年、医学部学生は、海外へ卒業旅行に行く学生が多く、2～3 月の海外渡航届の提出があった 104 名の情報収集および帰国状況確認を行った。海外渡航届提出があった 104 名のうち、渡航をキャンセルした学生が 34 名、2 月の帰国者 32 名、3 月帰国者 38 名であった。特に 3 月には世界各国に新型コロナウイルス感染症の流行が拡大したため、帰国した学生には、体調チェックシートの記録の提出を行うとともに、帰国後 2 週間は不要不急の外出を避けるように電話で指導をおこなった。

4. メンタルヘルス対策

4-1 健康調査(メンタルスクリーニング)

新入生:入学時のオリエンテーション時に CMHQ (College Mental Health Questionnaire)を配布・回収し、健康診断時に面談の案内を行った。スクリーニング調査結果で、医学部の基準に該当した学生に連絡し、20 名に面談実施した。

在学生:2011 年度から、医学科 2 年、看護学科 3 年を対象に全員スクリーニング面接を実施している。また、2017 年度から、医学科 4 年は留年生と希望者のみ面談対象とした。看護学科 3 年生については、10 月より臨床実習があるため、4～5 月に 57 名に全員面談を実施した。

スクリーニング面談の結果については、看護学部のチューター会議で報告を行うとともに、問題を抱える学生については、チューターから直接カウンセラーに連絡を取るようにしている。今年度は実習中断する学生はいなかった。

医学科 2 年生については、10 月からの解剖実習に合わせ面談を実施。解剖学担当教員の協力により 95%の実施率となった。神経症 3 名、気分障害 2 名、睡眠障害の学生を 1 名認めた。

医学科 4 年生については 2020 年 1 月に面談を実施。対象者 14 名中 10 名が面談を受けた。2020 年 1 月に実施した実習前の健康診断時にメンタル不調(気分障害、睡眠障害)を訴える学生 1 名については、自主的にクリニック通院を開始していたが、状況確認のためカウンセラー面談を実施した。

4-2 カウンセリング状況

鍋島地区の学生のカウンセリング体制としては、安田カウンセラーが主にカウンセリングを行っている。学生の状況により、尾崎医師、坂本教員、卒後臨床研修センター副センター長の江村医師（医学科 6 年対応）、医学部附属病院精神神経科学学校医 2 名と、2018 年まで精神科学学校医だった溝口医師の協力による相談・診療体制をとっている。安田カウンセラーによる継続カウンセリングを受けている学生は 26 名だった。

学校医診察については、学校医の協力により、附属病院受診の診察を保健管理センター分室内で行っているため、学生のメンタル状況および受診状況が把握しやすい支援体制になっている。学生課やチューターから情報提供・対応依頼があった授業欠席を繰り返す学生については、精神科医、副センター長、カウンセラーが対応を行い、必要に応じて学生課、チューター、および保護者と情報共有を行った。

カウンセリング・診察を受けた学生は 56 名、延べ面談数は 178 回だった。相談内容は、精神衛生が 45 名、学生生活 3 名、進路 3 名、学業が 2 名の順であった。

4-3 障害学生

保健管理センター分室として把握している障害学生数は 17 名。何らかの支援を行っている学生は 14 名。障害手帳等取得者は 0 名。病弱・虚弱、精神障害、発達障害などの障害を持つ学生が在籍。1 名の学生については、本庄地区の学生支援室集中支援部門と協力し、支援を行った。

5. 健康診断証明書発行状況

医学部の場合は、免疫の記録（小児感染症・B 型肝炎ワクチン接種）と国家試験免許申請に関する診断書発行のため 3 月に多い。保健管理センターでの 3 月までの診断書発行は 306 件であった。

6. 保健管理センター利用状況

今年度の保健管理センターの利用件数は 6850 件（学生 3423 件、職員 3427 件）であった。鍋島地区は、医師 1 名、カウンセラー 1 名、保健師 1 名、看護師 1 名の体制で対応している。

学生および職員の感染症対策の見直しにより、保健管理センターでのワクチン（麻しん・風疹・水痘・ムンプス・B 型肝炎ワクチン・インフルエンザなど）接種が減ったため、12 月までの利用者は、前年度より減少していた。しかし、2019 年 12 月中国で新型コロナウイルスによる感染症が発生し、体調確認等を行ったため、3 月の利用者は増加した。

2018 年度の保健管理センターの利用件数は 7,176 件（学生 3,255 件・職員 3,923 件）であった。

教職員の健康管理実施状況

<本庄地区>

1. 労働安全衛生活動状況

本庄地区では、安全衛生管理活動として、職場環境の整備（作業環境管理、職場の巡視、5S活動・快適職場づくり）、マニュアル等の整備（安全衛生管理マニュアルの作成、安全データシートの整備）、健康保持増進対策（健康診断、有所見者に対する事後措置、メンタルヘルス対策、受動喫煙防止対策）、安全衛生教育（安全衛生教育、能力向上教育、衛生管理者等資格者の確保）等の活動を環境安全衛生管理室と連携して行っている。

2. 健康診断

雇入時健康診断、一般定期健康診断、特定業務従事者健康診断、他機関受診（人間ドック等）を合わせると、992 名が健診を受けていた。健診受診率は昨年度に続き 100%を達成した。定期健康診断の要精密者は 357 名（56.6%）であったが、その内、精密検査を受診した者は 144 名（40.3%）であった。昨年度より精密受診率は改善しているが十分ではなく、医療機関を受診していただくよう引き続き受診勧奨を行っていく必要がある。

3. メンタルヘルス対策

（1）健康調査（メンタルスクリーニング）状況

本庄地区では、全教職員を対象に 7 月に中央労働災害防止協会のヘルスアドバイスサービスを活用したストレスチェックを行った。対象者 915 名中 886 名（回答率：96.8%）からの回答を得た。高ストレス者は 61 名（2018 年度 8.7%→2019 年度 6.9%）、要配慮者は 143 名（2018 年度 18.9%→2019 年度 16.1%）であった。高ストレス者には産業医または産業カウンセラー、保健師による面談を案内し、47 名の職員に面談による健康状態の確認を行った。そのうち 2 名からはご本人の希望があり、継続カウンセリングを行っている。

また、新規採用者・異動者等を対象にメンタル面のスクリーニングのための面談を行っている。新しい環境への適応に問題がないかを確認するため「疲労蓄積度チェック」などを用いて心身の健康の確認を行っている。本年度は 108 名（100%）の面接を実施し、1 名が継続面談となっている。

（2）カウンセリング実施状況

カウンセリング体制は、産業医 1 名、産業カウンセラー（非常勤）1 名、保健師 2 名である。相談の実数は 93 名、延べ数は 310 件であった。相談内容の内訳は、精神衛生、仕事、身体健康、人間関係などであった。

4. 復職支援実施状況

病気(メンタルヘルスの不調者を含む)やけがなどが原因で心身の健康を害し、休職している(休職しようとする者を含む)教職員に、段階(0～4 段階)ごとに産業医等の支援の下に実施している。それぞれの段階とは、第 0 段階(発症時の支援)、第 1 段階(療養開始・療養中の支援)、第 2 段階(職場復帰準備期の支援 例:仮出勤)、第 3 段階(職場復帰時の支援)、第 4 段階(職場復帰後の支援 例:慣らし出勤)である。

本年度の復職支援対象者は、フィジカル 0 名、メンタル 8 名で、延べ面接回数は 98 回だった。とくに仮出勤中は体調の変動が起きやすいことから、今年度からは原則的に週 1 回産業医面談による体調確認を行うようにし、不調時には早めの対応(以降の仮出勤プログラムの修正等)が行えるようにした。4 名の職員に復職支援プログラムによる復職のサポートを行った。復職判定会議を 4 件実施し、メンタル疾患で休職していた職員 4 名が復職した。復職後のサポートのための面談も適宜実施し、復職後の体調管理、職場への順応がスムーズに行われているかをフォローアップしている。

5. 労働災害報告

本年度の労災発生は計 8 件だった。10 月に 3 件の発生があった。発生状況、再発防止への取り組みについては毎月の本庄地区安全衛生委員会で環境安全衛生管理室より報告されている。

6. 長時間労働に対する産業医面談

月の勤務時間が標準時間から 100 時間を超えた者、もしくは 60 時間以上が 2 ヶ月続いた者に対して産業医面談を行い、健康状態の確認や管理監督者への勧告を行うこととしている。毎月人事課より長時間労働者についての報告を受け、産業医が確認を行っている。本年度の面談対象者はなかった。教員は裁量労働制となったため、勤務状況表を各部局へ提出することとなった。高ストレス面談時には、時間外労働の状況についても確認を行うようにしている。

<鍋島地区>

1. 労働安全衛生活動状況

鍋島地区では、鍋島地区安全衛生活動計画の中の衛生管理活動を環境安全衛生管理担当の産業医、総務課、専任衛生管理者、衛生管理者が連携し活動を行っている。

2. 健康診断

職員健診は、大学附属病院では定期健康診断の 100%受診を労基署より指導をされている。今年度の定期健康診断受診率も 100%であった。

雇入時健康診断については、佐賀中部保健福祉事務所の立入検査により、採用後概ね 1 か月以内に実施するよう指導があった。異動が多い附属病院職員については対応が困難だったが、委託契約している近医での受診を勧め、1 か月以内に行うよう計画・実施している。有機溶剤取扱者および電離放射線従事者健康診断も 100%受診であった。

精密検査については、未提出者が昨年よりは減ったが依然多く、職員健康診断を機に疾患が判明する場合も数件認め、文書、電話等で精密検査の勧奨を行っている。

今年度はオプション検査として希望者に乳がん・子宮がん検診を実施した。いずれも 133 名の受検があった。4 年目となる歯科検診は 151 名の受検があった。

3. 感染症対策

職員の感染症対策については、総務課・附属病院感染制御部と協力し企画・実施した。ムンプス・麻疹・風疹・水痘などの小児感染症対策については、今年度より有資格職員については雇入時までに小児感染症ワクチンを 2 回接種してくるよう、感染制御部と話し合い対応を行った。資格を有しない非常勤職員に対してはのべ 65 名にワクチン接種を行った。

B 型肝炎対策として、健康診断時に 176 名の抗体検査を実施し、抗体陰性者 54 名にワクチン接種を行った。インフルエンザワクチン接種は、全職員を対象に 1476 名にワクチン接種を行った。

4. メンタルヘルス対策

新規採用者・異動及び昇任者を対象としスクリーニング面接を 225 名に実施した。継続が 5 名、病院紹介が 1 名だった。うち新人看護師は年 2 回の面接を実施。年度途中の退職が 2 名あった。

健康診断時に職業性ストレスチェックを行った。職員のメンタルヘルス対策として 2011 年度から継続実施している。1657 名（回答率 97.6%）が回答した。要配慮者が 394 名（23.8%）、高ストレス者が 137 名（8.3%）だった。40 名にカウンセラー面接を実施した。カウンセリング継続は 1 名だった。

個別カウンセリングは、上司からの勧めや指示で来所した事例や病休や異動といった事例で、現場の上司等と連携したケースが多くある。病院紹介となったケースも 5 名あり、職員

の安全を確保するための危機介入的な働きを求められている。今後もより迅速な支援を実施する体制作りは必要である。

大学職員の場合、異動は避けられないものであり、適応障害となる事例も認める。異動時の職務に関する教育・指導・配慮は職員の業務だけでなくメンタルヘルスにも影響するため、管理職の果たす役割は大きい。そのため安全管理担当・安全衛生スタッフと協力し、管理職研修を実施するなど、よりよい職場環境となるよう取り組んでいる。

5. 過重労働対策

4 月からの働き方改革により長時間労働者が前年度よりもかなり増えている。長時間労働者に対して産業医面談を行った。月の勤務時間が標準時間から 100 時間を超えた者、もしくは 45 時間以上が 3 か月続いた者を対象に、20 名に産業医面談を実施した。

6. 復職支援対策

復職支援対策として、職員 11 名にのべ 76 回の産業医面談を行った。メンタルでの休職者のうち 4 名の職員が復職支援プログラム後に復職した。

7. 禁煙対策

月 1～2 回の禁煙パトロールを実施し、鍋島地区の敷地内外の巡視を行い、月に 1 回の安全衛生委員会で問題点の報告を行っている。

Ⅱ 教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員 3 名はそれぞれ大学及び大学院の講義を担当し、西九州大学、県立総合看護学院、県内の高校などでの講義・講演も依頼を受け行っている。准教授は大学院生の教育指導も行っている。また、学生や教職員向けの健康教育やミニレクチャーなども適宜実施している。以下に実績を示す。

<本庄キャンパス>

1. 講 義

木道(学内)

健康科学 A(全 15 回・後期) 92 名

トレーニング理論・実習(池上寿伸・木道圭子):教育学部 3 年生

木道(学外)

病態論 1-A 循環器内科 佐賀県立総合看護学院 看護科 2 年 41 名

- ① 心不全 令和元年 5 月 30 日
- ② 虚血性心疾患 令和元年 6 月 20 日
- ③ 不整脈 令和元年 7 月 4 日

荒木(学内):

ダイバーシティ・人権教育特論 大学院生 後期,木曜 2 限

女性の働き方 芸術地域デザイン学部・経済学部

医療人キャリアセミナー 医学部

2. 大学院生等指導

なし

<鍋島キャンパス>

1. 講義等

尾崎(学内):

実習の安全管理:感染予防を中心に. 医学科 4 年 臨床入門. 2019.1.28.

健康科学の Topics. 大学院修士課程医学・看護学概論(1). 2019.6.10

漢方入門:東洋医学の基礎知識. 医学科 4 年 臨床入門 Unit10 2019.9.5.

漢方入門:内科領域における漢方. 医学科 4 年 臨床入門 Unit10 2019.9.13.

薬っていったい何だろう? 薬の使用と歴史. 教養講座「くすりの話」. 2019.10.3.

生活習慣と健康. インターフェイス科目:食と健康Ⅲ 運動と栄養. 2019.11.6

尾崎(学外):

病態治療学Ⅱ(消化器・泌尿器科)1. 肝臓・胆道・膵臓の機能と構造. 2019.10.2. 4 限目. 西九州大学看護学部

病態治療学Ⅱ(消化器・泌尿器科)2. 肝疾患の検査・診断と治療(ウイルス性肝炎・その他の肝炎)2019.10.2. 5 限目. 西九州大学看護学部

病態治療学Ⅱ(消化器・泌尿器科)3. 肝疾患の検査・診断と治療(画像診断・肝硬変・肝癌) 2019.10.16. 4 限目. 西九州大学看護学部

病態治療学Ⅱ(消化器・泌尿器科)4. 胆嚢・胆道疾患の検査・診断と治療 2019.10.16. 5 限目. 西九州大学看護学部

病態治療学Ⅱ(消化器・泌尿器科)5. 膵疾患の検査・診断と治療 2019.10.30. 4 限目. 西九州大学看護学部

2. 大学院生等指導

佐賀大学医学部大学院医学系研究科博士課程医科学専攻(文部科学省国費留学生)

Mr. Mohamad Manirujjaman (2016.4 入学 2020.3 学位取得卒業)

佐賀大学医学部大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 1 年(文部科学省国費留学生)

Ms. Rasheda Pervee(2018.4 入学)

Ⅲ 研究に関する状況と自己評価

保健管理センターは学生・教職員の健康管理が主な業務であり、研究が活発に行われているとは言えないものの研究報告、学会発表等は着実にいき、毎年一定以上の成果を出している。九州地区大学保健管理研究集会、全国大学保健管理研究集会などの大学の保健管理に関する学会やそれぞれの専門領域の学会に積極的に参加し、研鑽に努めるようにしている。科研費への応募も継続して行っており、荒木の研究テーマが採択された。以下に研究報告、学会発表等の内容を提示する。

<本庄キャンパス>

研究報告

〔学会発表〕

- 1.木道圭子、嘉松美穂、小川康子、荒木薫、安田郁、古川早苗、武富弥栄子、尾崎岩太:急速に進んだ佐賀大学の敷地内禁煙について 第 49 回九州地区大学保健管理研究協議会 令和元年 8 月 22 日 大分市 J:COM ホルトホール大分
- 2.荒木 薫:症例対照研究によるロタウイルスワクチンの有効性評価(2018,2019 シーズン). 第 23 回日本ワクチン学会 2019.11.30-12.01 東京 (学会誌 95 ページ)
- 3.荒木 薫:症例対照研究によるロタウイルスワクチンの有効性評価(2019 シーズン). 厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)研究班会議 2019.09.08-09 福岡
- 4.荒木 薫:症例対照研究によるロタウイルスワクチンの有効性評価(2018,2019 シーズン). 厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)研究班会議 2019.12.14-15 福岡

科学研究費補助金など

- 1.荒木:女子中高生の理系進路選択支援プログラム(国立研究開発法人科学技術振興機構 300 万円)企画名「継続・育成型リケジョプラットフォーム in SAGA」(採択)
- 2.荒木:ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)(国立研究開発法人科学技術振興機構 5000 万円)(採択)
- 3.令和 2 年度 基盤研究(C)「大学構成員の多様性に対応する<スマート健診>の開発」研究代表者:木道圭子、研究分担者:林田行雄、尾崎岩太、荒木薫(申請)
- 4.令和 2 年度 「定期接種化前後でみたロタウイルスワクチンの有効性の変遷」(科学研究費助成事業)荒木 薫(採択)

<鍋島キャンパス>

〔原著論文〕

1. Manirujjaman M, Ozaki I, Murata Y, Guo J, Xia J, Nishioka K, Perveen R, Takahashi H, Anzai K, and Matsushashi S. Degradation of the tumor suppressor PDCD4 is impaired by the suppression of p62/SQSTM1 and autophagy. Cells 2019, in press.
2. 尾崎岩太, 野口光代, 右田巳賀, 池田秀樹, 柿添亜矢, 佐藤英俊, 栗山一道. 気血水スコアを用いた大学生の冷え症に関連する因子の検討. 日本東洋医学会雑誌 2019, in press.
3. Guo J, Ozaki I, Xia J, Kuwashiro T, Kojima M, Takahashi T, Ashida K, Anzai K, Matsushashi S. PDCD4 knockdown induces senescence in hepatoma cells by up-regulating the p21 expression. Front. Oncol. 2019; 8:661.
4. Xia J, Ozaki I, Matsushashi S, Kuwashiro T, Takahashi H, Anzai K, Mizuta T. Mechanisms of PKC-mediated enhancement of HIF-1 α activity and its inhibition by vitamin K2 in hepatocellular carcinoma cells. Int J Mol Sci 2019; 20(5). pii: E1022.

〔総説〕

Matsushashi S, Manirujjaman M, Hamajima H, Ozaki I. Suppression mechanisms of the tumor suppressor PDCD4 mediated by tumor promoters EGF and TPA. Int J Mol Sci. 2019;20(9). pii: E2304. doi: 10.3390/ijms20092304. Review.

〔学会発表〕

1. 尾崎 岩太, 田中 賢一, 高橋 宏和, 安西 慶三, 松橋 幸子. 瘍抑制遺伝子 PDCD4 の発現抑制は培養肝癌細胞の老化を誘導する. 第 55 回日本肝臓学会総会 肝臓 2019;60(Suppl 1):O-271. 京王プラザホテル(東京都新宿区) 2019.5.30-31.

2. 尾崎岩太, 野口光代, 佐藤英俊, 栗山一道. 気血水スコアを用いた学生の便秘に関連する身体症状の検討. 第 70 回日本東洋医学会学術総会 日東医誌 2019;70(Suppl): 214(P235). 京王プラザホテル(東京都新宿区) 2019.6.28-30.
3. 木道圭子、嘉松美穂、小川康子、荒木薫、安田郁、古川早苗、武富弥栄子、尾崎岩太. 急速に進んだ佐賀大学の敷地内全面禁煙について. 第 49 回九州地区大学保健管理研究協議会 プログラム・抄録集 p15. JCOM ホルトホール大分(大分市) 2019.8.21-23.
4. 尾崎岩太. 老いも若きも使える漢方～内科医の漢方経験から. 第 19 回日本病院総合診療医学会 教育講演 5. 2019.9.15 佐賀市文化会館(佐賀市)

IV 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

保健管理センターでは、大学、自治体、地域の方々などから講演等を依頼されることも多くあり、時間の許す範囲で健康に関する講演を行うなど社会連携・貢献に努めている。県の審議会、委員会、関連学会等の委員となり活動に協力したほか、学会誌の査読員なども務めている。留学生の健康面の支援、留学する日本人学生の留学前後の健康面の支援なども佐賀大学の国際交流活動の一助になっていると考える。以下に 2019 年度に行った講演等について示す。

<本庄キャンパス>

〔新聞執筆〕

1. 荒木 薫: ろんだん佐賀「人生 100 年時代の教育」佐賀新聞: 令和 2 年 1 月 26 日
2. 荒木 薫: ろんだん佐賀「ダイバーシティのすすめ」佐賀新聞: 令和 2 年 3 月 8 日

〔講演〕

木道圭子: 相談員マニュアル～相談に適切に対応するために～ ハラスメント相談員スキルアップセミナー 令和元年 12 月 27 日 佐賀大学附属図書館 4 階会議室

〔自治体・学外の団体の委員会等〕

木道: 全国大学保健管理協会九州地方部会幹事
荒木: 佐賀市総合計画審議会委員

<鍋島キャンパス>

〔講演〕

1. 尾崎岩太. ウイルス性肝炎は飲み薬で治る！肝臓を治すための最新治療. 肝臓病講演会
2019.1.17. デイサービス白百合(佐賀市)
2. 尾崎岩太. 肝炎治療の最前線. 霜仁会佐賀支部総会 2019.2.16. ホテルグランデはがくれ
3. 尾崎岩太. 佐賀県の肝炎・肝臓の現状(C型肝炎を中心に) 佐賀県肝疾患対策委員会
2019.3.19. 佐賀大学医学部
4. 尾崎岩太. 大学病院で働き始める前に. 平成 31 年度新人看護師オリエンテーション
2019.4.2. 佐賀大学医学部臨床小講堂
5. 尾崎岩太. 夏の漢方～夏ばてと夏のおなか～. 漢方セミナー in SAGA. 2019.7.6. ホテルニ
ューオータニ佐賀
6. 尾崎岩太. 免疫学:麻疹・性感染症の実相. 令和元年度教員免許更新講習会. 2019.8.2.佐
賀大学医学部
7. 尾崎岩太. 環境保健:食中毒の実相/アレルギー. 令和元年度教員免許更新講習会.
2019.8.2.佐賀大学医学部
8. 尾崎岩太. インターフェロンフリー経口剤による C 型肝炎治療について. 平成 31 年度インタ
ーフェロンフリー治療に係る診断書作成医講習会 2019.8.9. 佐賀県庁
9. 尾崎岩太. 冬の漢方:呼吸器編. 明日から使える漢方セミナー in SAGA. 2019.12.21. ガーデ
ンテラス佐賀

〔自治体の委員会等〕

尾崎:佐賀県肝疾患対策委員会(2008～, 委員長)、佐賀県肝炎治療助成費認定協議会委員
(2008～、2016 年より委員長)、佐賀県国民健康保険診療報酬審査委員会委員(2012～)、佐
賀県社会福祉審議会委員(2016～)

Peer Review

Biomedical Reports, BMC Cancer, Campus Health, Cancer Medicine, Cancers, International
Journal of Molecular Sciences, Molecular Medicine Report, International Journal of Molecular
Medicine, International Journal of Oncology, OncoTargets and Therapy, World Journal of
Gastroenterology

V 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と 自己評価

保健管理センターの組織運営については、保健管理センター運営委員会で審議、報告を行い運営しており、2019 年度についても業務の遅滞や問題、事故等もなく円滑に業務は遂行できたものとする。運営委員会では、健診を中心とする保健管理業務の企画立案、健康診断の結果の報告、健診データの解析結果の提示、健康調査の結果報告などを行っている。

佐賀大学の学内の各種委員会にも積極的に参加し、保健管理センターとして専門的見地から意見を述べ委員会運営に貢献している。また産業医として佐賀大学の労働安全衛生業務に従事している。災害や事故、感染症の発生などに備え危機管理マニュアルを策定している。

今年度は、突発的な事項として、2019 年 12 月に中国で発生した新型コロナウイルス感染症が急速に世界へ流行拡大し、日本国内にも多くの感染者が発生した。佐賀大学でも学生が発症するなど、危機対応が必要な事態となった。この件に関して開催された大学の緊急対策本部会議に参加し、他の部局と協力して対応に当たった。流行は続いており、引き続き危機管理、および感染拡大防止について、周知や各部局との連携を行っていく必要がある。

担当している学内の委員会委員等を下記に示す。

委員等(木道)：

保健管理センター運営委員会(委員長)、本庄地区労働安全衛生委員会(委員、産業医)、安全衛生管理委員会委員、本庄地区産業医、入学試験委員会委員、学生委員会委員、教育委員会(オブザーバー)、教育室会議委員、施設マネジメント委員会委員、病原体等安全管理委員会委員、本庄地区放射線障害予防委員会委員、放射性同位元素等安全管理委員会委員、新型インフルエンザ対策委員会委員、ハラスメント相談員(6 月まで)、学生支援室・健康支援部門(部門長)、集中支援部門(協力教員)、ダイバーシティ推進室員、受動喫煙防止対策ワーキンググループ委員長

委員等(尾崎)：

保健管理運営委員会(委員)、鍋島地区安全衛生委員会(委員、産業医)、医学部教育委員会(オブザーバー)、動物実験委員会、遺伝子組み換え実験安全委員会、佐賀大学医学部及び附属病院エコアクション 21 委員会、佐賀大学医学部附属病院社会保険委員会(委員長)、ハラスメント相談員

委員等(荒木):

保健管理センター運営委員会委員、アドミッションセンター広報・高大接続等専門委員会委員、大学院教養教育プログラム部会委員、性別違和を理由とする通称名等使用の要項に関するWG委員、女性限定または女性優先公募に関するWG委員、ダイバーシティ推進室運営委員(副室長)、ハラスメント相談員(7月～)

VI 改善すべき点

本庄キャンパスの学生の健康診断受診率は以前から十分でなく、80%前後で推移していた。2018年度の本庄キャンパスの学生の健診受診率は前年より0.6%低下の79.7%であったが、2019年度はさらに0.8%低下の78.9%だった。受診率が8割を切る現状が続いていることについては健康管理、リスクマネジメント(結核などの感染症対策)の点から、受診者を増やし受診率が改善するよう何らかの対策を講じなければならない。

後期の留学生健診について、受診率を上げるための試みとして学生証による認証を使った予約システムを導入し健診を実施した。対象学生65名中64名(98.5%)が受診し、これまでにない高い受診率を達成した。他大学では、健診予約システムの導入が進んでおり、佐賀大学でも今後導入を検討していきたい。

鍋島キャンパスでは、学部生の健診受診率は非常に高い(906名中891名受診、98.3%)が、大学院生の健康診断受診率が低い状況が続いている。2019年度は56.2%で、昨年度より向上したものの全国平均の80%には達していない。医学部の大学院生は社会人が多いことから、外部医療機関での健康診断結果の提出を引き続き呼びかけ、健康状態の把握に努める。